

第14回

全国読書マラソン・コメント大賞

主催：全国大学生協同組合連合会
共催：出版文化産業振興財団 (JPIC)
朝日新聞社

作品募集中!!

読書の
楽しさを
伝えたい

賞品

	金賞	図書カード 3万円分……1名
	銀賞	図書カード 2万円分……2名
	銅賞	図書カード 1万円分……3名
	アカデミック賞	図書カード 1万円分……3名
	ナイスランナー賞	図書カード 1千円分……200名

応募方法

- ①このチラシの応募用紙に必要事項をご記入の上、切り離して生協店舗にお持ち下さい。
- ②応募された作品は返却いたしませんのでご了解下さい。

応募締切

10月5日(金) 店舗受付分まで

選考と発表

2018年11月中に選考委員会で審査を行い、賞を決定します。賞の発表は朝日新聞、『読書のいずみ』157号(2018年冬号)及び全国大学生協連ホームページ (<http://www.univcoop.or.jp/>) を通じて行い、入賞者への通知と賞品の授与を行います。

イラスト：山口マオ

【コメント、個人情報のお取扱いについて】

お寄せいただいたコメントは、大学生協の店舗、ホームページ、宣伝物、発行物などに掲載、もしくは冊子として利用することがありますのでご承諾ください。ご記入いただいた個人情報は、読書マラソンに関わる企画の実施と連絡のために利用いたします。また、上記の目的のため、ご所属の生協に提供されます。以上に同意の上ご提出ください。詳しくは右記のURLをご参照ください。 <http://www.univcoop.or.jp/izumi/index.html>



2017年第13回 全国読書マラソン・コメント大賞 受賞作のご紹介

昨年の大賞受賞作から金賞、銀賞、銅賞、アカデミック賞をご紹介します。
今年も傑作をお待ちしています。



「斜陽」

太宰治 / 新潮文庫



真っ赤な物語だった。かず子の言葉に、意志に強固なものを感じるとき、赤い火花が飛び散る気がした。ちら、ちらと散った火がそのまま燃え広がって、その熱さに、かず子は身悶えていた。登場人物たちは、皆、何だかもうどうして良いのかわからず、息を切らして迷っているようだった。傾いていく日の静かさと焦燥が彼女らの姿を燃やしていた。生き残っても死んでも滅びてゆく、革命を成し遂げても滅びてゆく、そんな気のする混沌とした時代の中で、泣き叫びながら、かず子は自分の見たい革命を目指したのだろう。

(弘前大学 / ももも)



「中原中也全詩集」

中原中也 / 角川ソフィア文庫



この男が綴る言葉はなぜここまで心にまとわりつくのだろうか。そもそも「綴る」という表現が間違いかもれない。中原からは、ぼたぼたと言葉が滴り落ちていくようだ。粘り気のある言葉たちが白紙にゆっくり沁みていく。失恋や子どもの死など波乱万丈な30年。中原中也という人間全てが詰まった全詩集。中原にかかると「春」「サーカス」といった爽やかで楽しげな言葉ですら実に悲しみを持たせ陰になっている部分を引き出す。キレイな言葉をただキレイな言葉で通過させない中原の感性こそが心にまとわりつく一番の理由なのだ。(北海道教育大学 / KK)



「アンドロイドは電気羊の夢を見るか?」

フィリップ・K・ディック (浅倉久志=訳) / ハヤカワ文庫SF



アンドロイドと人間の外見や内面、能力が全く同じであるのなら、両者の違いはどこにあるのだろうか。人間と同じように思考し、感情を持ち、人間と意思疎通ができるアンドロイドを奴隷として扱ったり、人間の都合で殺したりするのは果たして正しいことなのだろうか。この問題は一見すると、技術の発展した未来世界の、人とアンドロイドの間でのみ成立するものに見える。しかし、今現在世界中で見られる差別や衝突といった問題に通じるものでもあるのだ。あなたが敵だと認識している相手をよく見てみよう。それはあなたと同じように笑い、悲しみ、怒る人間に違いないのだ。(奈良女子大学 / チカ)



「美しい「日本語」の言いまわし」

日本の「言葉」倶楽部 / 三笠書房
知的生きかた文庫



「あゆちゃん、前より何かか優しくなった気がする」
この本を読んだから、言葉を意識して使うようになった私に母はそう言った。言葉や口調を変えただけで人柄までも変わったような気がする。これは本当のことだと私は思う。映画『マイ・フェア・レディ』でも認められたように、美しい言葉を話す人間は美しく見られるのだ。日本には先人が残した柔らかな、温かな言葉が那由他ほどある。便利だがどこか貧しくなってしまった今の時代に、私は生成りのようなこれらの言葉を使おうと思った。(北海道大学 / れもん)



「教養」とは何か

阿部謹也 / 講談社現代新書



「教養のある大人になりたい」という思いが私にはある。しかし、教養とは一体何たるか、教養の定義とは何か、それが分からないと教養を身に付けるための「正しい」努力ができないではないか。教養は、知識と人格との2つから成る。知識の方については、本を読めば知識は付けられる。しかし、人格の陶冶については如何なる手段を取ればよいのだろうか。そもそも人格とは何か。「やさしいで人格者」という安直な定義で良いのだろうか。人格についての本も読んでみよう。そう、これだ。1冊の本が、次の1冊へと導くのだ。(早稲田大学 / レオ)